

品川・生活者ネットワーク区議会議員 井上八重子の区議会レポート

●品川・生活者ネットワーク区議会議員 井上八重子の区議会レポートNo.84 ●2012年12月20日発行 ●発行責任者／民主・改革ネット石田慎吾／〒140-8715東京都品川区広町4F TEL.03-5742-6814 FAX.03-5743-2727 minsyu.s@titan.ocn.ne.jp http://www.m57426814.com/



品川・生活者ネットワーク区議会議員
合同会派「民主・改革ネット」副幹事長

井上 八重子

<http://inoue.seikatsusha.net/>

■お問い合わせ／連絡先

品川・生活者ネットワーク

〒142-0043品川区二葉1-10-11

TEL.03-5751-7105

FAX.03-5751-7106

shinagawa@seikatsusha.net

<http://shinagawa.seikatsusha.net/>

■政治の主役は市民です。生活者ネットワークは、まちに暮らす人々の声をもとに具体的な政策を提案する参加型政治を進め、品川を市民が自治するまちに変えるために活動しています。生活者ネットの議員は最長でも3期12年で交代し、議員を職業化・特権化しません。

Hot news

生活の中での自分自身の気づきが政治への第一歩 防災をテーマに「政策ゼミ」を開講

木造住宅が密集する品川区では、「防災に強いまちづくり」は2012年度予算の最重点施策とされ、地域防災計画の改定が進められています。しかし、「昨年に品川・生活者ネットワークが実施した防災アンケートから「避難所がどこか知らない」「情報の取得が不安」「避難所の備品は充分か」「プライバシーは確保されるのか」など様々な声がきかれました。

私たちの命を守る地域防災事業が区民とかけ離れたものにならないよう、市民案を議会質問の形で行政に提案するため、市民が考える「防災ゼミ」を6月から10月に5回実施し、18名が参加しました。

一般質問としてつくり上げた防災政策提案作成の過程や議会傍聴を経験し、ゼミの参加者は、自分たちの疑問がどのように行政に扱われ、政治的問題として議論されていくか身をもって知つてもらえたことと思います。

地域防災は 市民の自治と行政の協働で

第1回講座は、参加者のすそ野を広げることと、防災への基礎的知識の取得という観点から江東区の体験型防災学習施設「そなエリア東京」を見学(6/23)。第2回は「ワークショップ

第4・5回では、いよいよ「市民が提案する防災対策を形にしよう！」一般質問を組み立てて挑戦。(1)地域、町会、自治会の防災活動(2)防災意識の向上と対策について具体的な提案を出し合いました(9/11、10/26)。

Q 「市民が考える防災対策」
A 一般質問質疑より
Q 「市民が考える防災対策」



A 改定地域防災計画に女性の視点意見を取り入れると明記。連絡会議は住民の自主運営のため、女性の参加を働きかける。防災井戸として既存井戸の登録制度創設を。

A 必要な水量確保は十分。民間井戸の活用は、水質・地盤沈下など研究課題。

Information **みんなで語ろう会**
「子どもに寄り添ったじめ対策を考えよう！」

日時 ■2013年2月13日(水) 10:00~12:00
場所 ■品川・生活者ネットワーク事務所:品川区二葉1-10-11
お問い合わせ ■03-5751-7105 参加費は無料です

「自殺の練習」というじめによって引き起こされたことが疑われる大津市の中学生の自殺以来、じめ問題が相次ぐ中、品川でも区立中学校でじめ自殺が現実のものとなっていました。この四半世紀、教育界は総力をあげて対策に取り組んできましたが、じめはさらに悪質かつ深刻化しています。子どものSOSをいかに早期に発見するか？安心して相談できるしくみをどうつくるか？人権侵害が確認された場合、救済機関などにどうつなぐか？じめが発生している学校とどう連携するのか？皆さんと話し合いたいと思います。

Q 災害弱者の身元・安否確認に民生委員との連携を。
A 防災区民組織と民生委員が連携して支援活動ができるよう、マニュアルを検討していく。★
Q 防災訓練に参加したくなる市民のアイデア導入を。

「防災ゼミ」に参加して
小山 7丁目自在住 阿部佐千子

ゼミで度々行つた参加者が意見を出し合う「ワークショップ」では、コミュニケーションが深まるなど良い学びとなりました。

Q 出前講座開催、防災市民大規模訓練を輪番で、年間通して地域センターで展示を。★
A 要請があれば出前講座は実施、区民大学で防災連続講座を企画、防災グッズ等提案の方法など情報提供について検討。★

Q 生活の現場から生まれた提案に、前向きな回答(★印)を引き出すことができました。議会質問にとどまらない市民が議会を使いこなす、生活者ネットの活動を今後も継続していきます。

ゼミで度々行つた参加者が意見を出し合う「ワークショップ」では、コミュニケーションが深まるなど良い学びとなりました。

●再生紙を使用しています。



▲一方通行的な知識や技術の伝達ではなく市民が自ら参加・体験し、グループの中で学びあったり割り出したりする「ワークショップ」で、市民政策を立案。第2回ゼミの様子

「そなエリア東京」を見学し、首都圏直下型地震をどう生き抜くかの体験は有意義で、是非、のまちの町会でも見学を検討してみたいと思います。またこのよくな自分たちが考える企画があれば参加してみたいですね。

●再生紙を使用しています。

品川・生活者ネットワーク区議会議員 井上八重子の区議会レポート

2012.12/20 No.84

▶生活者ネットワーク品川・大田・目黒共催で開かれた学習会「農業だけじゃないTPPがもたらすもの」で講師に招いた天笠啓祐さんと。(11/6)

▲区民委員会は10月23日～25日に鹿児島市、北九州市を行政視察。観光戦略、地域密着型商店街の再生、川辺を活かしたまちづくり、若者の就労支援策について調査研究を行った。(北九州市ワークプラザ10/25)

品川区は2005年から児童に防犯ブザー付の携帯電話を無償で貸与しています。急速に普及している携帯電話ですが、その電磁波が発達期の子どもの脳にリスクがあることは、あまり問題視されていません。予防原則に基づく電磁波リスクを保護者に周知するよう区に求めました。

2012年は公立小学校の全児童と私・国立希望児童、1万3000人にまもるつちを貸与。経費見直しで、近隣セキュリティシステムの稼動を条件に新たに入札を行い、今年からKDDIと契約し、電話・メール10回線の機能が付くauのマモリーノⅡに変更。市販品のため、回線数減はコストとの見合いで断念しました。

子ども的好奇心は4月導入当初、通学路で歩きながらメールを操作するという姿に現れました。区教委と生活安全課は「通学時に操作をしないこと」と安全対策を強化。子どもが興味を持つものを与える、使いたいと思うのは当然で、子どもの気持ちを翻弄する結果となっています。

「近隣セキュリティシステム」は、品川区の委託を受けたNPO法人(ものづくり品川宿)によつて2005年開発。03年に構想が示されこのシステムは地域で子どもを見守り安心安全のまちをつくろうという緊急システムです。



区議会議員
井上 八重子

第4回定例会一般質問質疑より 子どもを見守りに携帯電話は有効か?

区政
NOW

を見守り安心安全のまちをつく

児童が携帯する子機には二つ

の機能(防犯ブザーとPHS電話)が備わり、危険信号を発信されると、庁舎内に待機するオペレーター(警備会社委託)が

通話で確認後、協力者の固定電話携帯電話に、性別・学年・地図情報が送られます。

開発から実施に至る事業費は2億4500万円、さらに次年

度からはシステム維持費、通信基本料の固定経費に1億6000万円余が支出されました。

通信網はPHSから携帯電話網へ、子機本体は2Gから3G(第

三世代携帯)へと変化しており、日々進化し続ける技術に、当初の品川区独自製品は消滅しました。

Bにランクしました。送電線などから出る低周波の電磁波が2

Bです。水分の多い、発達期の子どもの脳は電磁波が浸透しやすく、影響があるとすれば大人に比べて大きいと見られているため

予防原則に基づき子どもの使用を制限すべきというのが世界の趨勢※になっています。

長時間の通話をしない、通話開始前後が特に電磁波出力が強く

なるので、つながり始めは頭部から離す等、安全に使う方法があることは意外と知られています。

全児童に携帯電話を貸与して

いる品川区は、電磁波リスクと安

全な使用方法を保護者に周知すべきと、区の姿勢を質しました。

区は、「動物実験や細胞実験で、携帯電話の電磁波が確実に健康に影響に結びつく証拠はない」

という国の説明を拠りどころに、保護者への周知は考えていないと答弁。大人基準を盾に、将来の子どもへのリスクに目をつぶる姿勢は改めるべきです。



▲重さは50g、電話・メール10回線の機能付きのマモリーノⅡ

議会を開かれた場に 託児付き傍聴が実現に

井上八重子の会派活動報告

議会の傍聴は、市民に平等に認められた権利でありながら、

聴規則の存在が乳幼児連れの傍聴が難しくなっています。

日光市は当初予算の中でも必要なものは職員が提供し、「子ども連れ議会傍聴」に申請があつた場合に、空いている議事室を使うという柔軟さ。経費は託児者の報償費と保険代のみです。

議会の改革推進度が問われています。



▲「開かれた議会」をめざして行われた日光市議会の議会報告会も傍聴。11月15日。日光公民館に於いて

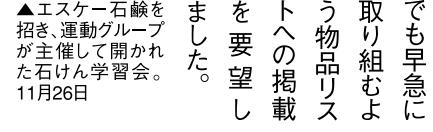
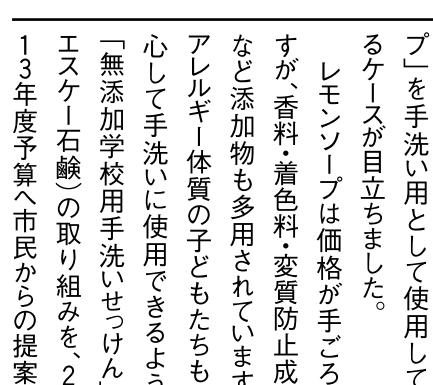
聴を困難にしています。民主・改革ネットは議会の予算要望に託児付き傍聴のしくみを提案。

議会棟4階旧記者室の改修にあわせて、託児の場を確保できるようになりました。運用など具

体的な提案を行うために、会派で他の自治体を視察しました。

日光市は当初予算のない中で、必要なものは職員が提供し、「子ども連れ議会傍聴」に申請があつた場合に、空いている議事室を使うという柔軟さ。経費は託児者の報償費と保険代のみです。

議会の改革推進度が問われています。



COLUMN 「無添加学校用手洗いせっけん」 の取り組みを要望!

して要望しました。

この無添加せっけんは、手洗いによる手荒れを指摘した養護教諭の要望を受け2005年に誕生しました。添加物を使用していないことに加え、給食廃油を使用していることで水循環の環境教育に活かせることが、子どもの手に収まるます。

2012年8月に石けんに関心を持つ区民の方たちと、子どもが利用する施設での様々な石けんが使われているのかを見るため、大井倉田・滝王子児童センター、大井図書館で石けん調査活動を行いました。

施設が、区が作成した「物品リスト」から選び、M社の「レモンソープ」を手洗い用として使用しているケースが目立ちました。

レモンソープは価格が手ごろですが、香料・着色料・変質防止成分など添加物も多用されています。

アレルギー体質の子どもたちも安心して手洗いに使用できるよう、「無添加学校用手洗いせっけん」(エスケー石鹼)の取り組みを、20

13年度予算へ市民からの提案と

